フランス COSI ネットワークによる異世代ホームシェアの運営システム MANAGEMENT SYSTEM ABOUT THE INTERGENERATIONAL HOME SHARE BY COSI-NETWORK IN FRANCE

井上 早帆*, 菊地 吉信**
Saho INOUE and Yoshinobu KIKUCHI

The purpose of this paper is to clarify the management system of the Intergenerational Home Share. For that purpose, we focus on the COSI-network, which is the network of groups operating the Intergenerational Home Share programmes in France. The Intergenerational Home Share has been rapidly growing in France in a decade after 2003 and COSI network has been acted an important role. The Intergenerational Home Share in France has various approaches depend on the delivering group's background and relationship to other relevant organisations. Their management systems could be good precedents to Japan.

Keywords : Home Share, Management system, Intergenerational, COSI-network, France

ホームシェア, 運営システム, 異世代, COSI ネットワーク, フランス

1. はじめに

近年、わが国でも大都市圏を中心にシェア居住が広まりつつある。その中でも家主宅の空き部屋を他人がシェアし、家主と共同生活を行うシェア居住のことを「ホームシェア」と呼ぶ。海外ではホームシェアの中でも、高齢者宅の空き部屋を若者がシェアする「異世代ホームシェア」の取り組みが行われている。欧米諸国でホームシェアに取り組む団体が加盟するホームシェア・インターナショナルには、現在 12 カ国からの参加がある^{注1)}。今回対象としたフランスで異世代ホームシェアの運営を行っている団体は 34 団体^{注2)}あり、大都市から地方中小都市までフランス全土に広がりを見せている。そのすべての団体が 2003 年以降に創設されたものであり、歴史は浅いがすでに総計 3,500 組近くの実績がある^{注3)}。

フランスでは、住宅困窮者支援事業を実施するアソシアション^{注4)} (association) が近年急速に増加している^{1) 2)}。今回調査した 7 団体中 6 団体がそのアソシアションである。こうした団体を中核として行われる異世代ホームシェアでは、高齢者の見守りや生活支援等の効果に主眼を置きつつ、若者の孤立解消やコミュニケーション能力の向上、双方への経済的負担の軽減効果等、共同生活による多くのメリットが期待されている³⁾。

わが国でも、異世代ホームシェアに関心を持つ地域や団体は増えつつあり^{注5)}、アンケート等を通じて一定の関心が持たれていることが示されている^{4) 5)}。異世代ホームシェアは、住宅費負担の軽減のみならず、孤立を避け精神的な安心感を生み出さうといった社会福祉的な面において、わが国における有意義な新しい居住スタイル

の一つとして発展が期待できる。

そこで、本稿では異世代ホームシェアの実績豊富なフランス COSI ネットワークにおける異世代ホームシェアの運営システムを明らかにし、わが国において異世代ホームシェアを運営するための資料を提供することを目的とする。そして本稿により得られた知見を、わが国における異世代ホームシェア普及の一助としたい。

フランスには異世代ホームシェア事業を行っている団体のネットワークが 3 つある。COSI ネットワーク (Réseau COSI)、ensemble2generations^{注6)}、Réseau L.I.S.である^{注7)}。その中でも本調査は COSI ネットワークを主たる調査対象とした。別のネットワークである ensemble2generations はフランチャイズ式であるのに対し、COSI ネットワークは、フランスにおいて異世代ホームシェアを創始した Le Pari Solidaire を筆頭に、独立した団体同士を対等の立場として構成しているネットワークである。すべての加盟団体が異世代ホームシェアの運営という同じ業務を行っているが、それぞれの独立性が高く、その団体の所在地が抱える事情に合わせて運営システムも異なっている。

フランスにおける短期間での広がり、COSI ネットワークの多様性は、異世代ホームシェア黎明期にあるわが国の情報源としてより適していると考え、今回の調査対象に選定した。

ホームシェアを扱った先行研究としては、園原一代、宮原真美子、木村直紀による論文や報告^{6) 7) 8) 9)} 等がある。しかし本稿のようにフランスにおける運営システムの実態や団体間の比較検討、さらにネットワークの役割等に注目した研究はない。

* 福井大学工学研究科建築建設工学専攻 博士前期課程

** 福井大学大学院工学研究科 准教授・博士(工学)

Graduate Student, Graduate School, University of Fukui
Assoc. Prof., University of Fukui, Dr. Eng.

2. 調査方法

2-1 調査概要

2012年10月、フランスの異世代ホームシェアを行っている団体の運営担当者にヒアリング調査を行った。ヒアリング項目について表1に示す。今回分析対象とした6団体（表2、図1）中5団体が異世代ホームシェアを行うために創設されたアソシエーションであるが、トゥーロンのPACTのみ性格を異にする^{注8)}。

また、2013年5月に、追加調査をメールにより行った。

表1 ヒアリング項目について

1. 団体について	①創立のきっかけ②団体の人数・バックグラウンド③役割・担当について
2. 利用状況について	①登録者数②マッチング数③運営の流れ
3. お金の流れについて	①家賃②年会費・登録費③収支④改修費 ^{注9)}
4. 外部とのつながり	①広報について②COSI ネットワーク内の位置③行政とのつながり④教育機関とのつながり
5. 課題・問題点	①課題・問題点
6. その他	①その他 ^{注10)}

表2 調査対象団体の概要

団体名	事務所所在地 (人口 ^{注11)})	ヒアリング対象者
Le Pari Solidaire	パリ Paris (224万4千人)	Aude Messean 氏（代表者）
Nante's Renoue	ナント Nantes (28万5千人)	Erwan Quenere 氏（代表者）
LIEN	カン Caen (10万9千人)	Caroline Leblanc 氏（異世代ホームシェア事業の責任者）
At Home Crochus	オルレアン Orléans (11万4千人)	Stéphanie Lumbreras 氏（代表者）
Le Parisolidaire Lyon	リヨン Lyon (48万4千人)	Corinne BELOT 氏（代表者）
PACT	トゥーロン Toulon (16万5千人)	Alain FARACHE 氏（異世代ホームシェア事業の責任者）
(参考) ensemble-2generations	パリ Paris (224万4千人)	Typhaine de PENFFNTENYO 氏（代表者）

図1 対象団体の所在地について

2-2 分析方法

本稿では調査を行った COSI ネットワーク 6 団体の比較検討を行う。3 章にて調査対象の①創立の経緯、②COSI ネットワーク概要、③実績、④課題と問題点について示し、4 章にてフランス COSI ネットワークによる異世代ホームシェアの運営システムにおいて重要な①書類、②運用手順、③関係主体とのつながり、④財源の4項目に焦点を当て分析する。

3. 調査対象について

3-1 各団体の創立の経緯

フランスにおける異世代ホームシェアの創始者 Aude Messean 氏（Le Pari Solidaire）は、2003 年のパリの猛暑で多数の高齢者が亡くなったことをきっかけに、この異世代ホームシェアの活動を起こそうと考えた。同氏には個人的にも、「高齢者をもっと大切にしないてはならない」という強い思いがあった。各団体のヒアリング結果に基づく、各団体の創立のきっかけは主に次の5項目にまとめることができる^{注12)}。

- (1) 2003 年パリの猛暑
- (2) アベ・ピエール神父の考え^{注13)}、宗教的考え
- (3) 高齢者の健康寿命を延ばす、社会とのつながりを広げる
- (4) 若者の住宅政策、人間性の成長
- (5) アルテルナンス^{注14)} 利用者のため

3-2 COSI ネットワーク概要

COSI ネットワークは、Aude Messean 氏（Le Pari Solidaire）のもとへ、自分の地域でも異世代ホームシェアの仕組みを広げたいと相談に訪れた Erwan Quenere 氏（Nante's Renoue）や、Corinne BELOT 氏（Le Parisolidaire Lyon）らによって創設された。2013 年4月時点で、フランス全土の16 団体が加盟している^{注15)}。

COSI ネットワークは、創設当初は情報交流のみであったが、2005 年に正式にアソシエーションとなった後は、高齢者の健康を守る活動をしている慈善団体に認知され、COSI ネットワークとして補助金を受けることができた。その資金で広報に力を入れることができています。現在はフランス全土を4つのブロックにわけ、それぞれに代表を置いている。代表の主な役割は活動の相談や新規創設者への援助等である。COSI ネットワークの役割は主に4つある。

- (1) 共通の憲章の利用…表4 参照
- (2) 広報活動の援助…加盟団体はパンフレットやホームページの作成に関して COSI ネットワークからの援助を受けることができる。また、COSI ネットワークとしての広報も行われているので、各団体が知名度を上げる上で役立っている。
- (3) 新規創設の援助…COSI ネットワークに加盟したい団体へのアドバイスを行う。しかし、不当に団体を立ち上げる人々の加盟を防ぐため、加盟を希望して1年経った時点でその団体が加盟できるか判断される。
- (4) 活動報告会の開催…年1回全団体が集まり、活動報告、意見交換を行い、互いに高め合っている。新規加盟希望団体の判断はこの場で行われる。

これら4つの役割により、COSI ネットワークはフランス全土に広がることとなり、フランスにおける異世代ホームシェアの発展に大きな影響を与えている。今回の調査はその中の14 団体に連絡を

取り、調査承諾の返事があった 6 団体（表 2）を対象とした^{注 16)}。

3-3 実績

各団体の創立から 2012 年末日までに異世代ホームシェアを行った利用者の総数と、2013 年 4 月 1 日時点で異世代ホームシェアを行っている利用者の人数を表 3 に示す。団体間で利用者数に大きな差があるが、これは所在地の人口規模や団体の活動年数の違いによるものと考えられる。また、実際に活動しているスタッフが感じている利用者の変化については、以下のような意見が挙げられた。

- ・多くの高齢者が、最初は他人と暮らすことに抵抗を示すが、実際に若者と共同生活を行ってみると、一人暮らしのときより生活に張りがでて、生き生きと暮らしている。（Nante's Renoue）
- ・高齢者にとって近くに話し相手がいることは健康寿命を延ばすためにも重要となっている。（Le Pari Solidaire）
- ・若者は留学生も多く、その地域に詳しい高齢者の方とのコミュニケーションを通して地域の文化を学ぶことが出来ている。（LIEN）

3-4 各団体が抱える課題と問題点

各団体が抱える課題と問題点を挙げるならば、主に次の 3 点にまとめられる^{注 17)}。

- (1) 財源の不安定さ…活動資金の問題は 6 団体の 4 団体が頭を悩ませている。非営利の活動ゆえ、人件費を払うためには補助金が必要不可欠となっている（4-4 節に後述）。その申請作業の負担が大きいことや、継続的支援が得られるかどうか不確実なことが運営上のリスクとなっている^{注 18)}。
- (2) 高齢者の健康状態の見極め…異世代ホームシェア開始時には問題がなくても、認知症が進行したりその他の病気や死亡といった問題が生じたりする事態は避けがたく、利用者をどこで線引きするかの判断は団体スタッフの経験に頼っている。
- (3) スタッフの能力…この事業を進めるには、高齢者だけでなく若者や住宅に関する知識も必要である。COSI ネットワークの各団体でも、活動者のバックグラウンドによって知識や得意分野に偏りがあり、他分野の知識を得るために苦労している人もいた。さらに、有給スタッフは 1 名という団体が多く、個人の頑張りに依存する部分が大きい^{注 19)}。これは持続性という観点からは不安材料である。

4. 異世代ホームシェアの運営システムについて

4-1 必要な書類について

異世代ホームシェアを行うにあたり、各団体が①登録用紙、②COSI ネットワーク共通の憲章、③団体独自の憲章、④ルールチェックリストの 4 種類の書類を作成している。各書類の役割について表 4 に示す。

COSI ネットワークでは共通して、「助け合いはするが、介護ではない」という立場を高齢者と若者の双方に明確に理解してもらうことに特に気を遣っている。そのため、共通の憲章の中に「従属関係でなく、強制されない気兼ねないものとする」「家族が果たす義務を全て担うものではない」「相手が一時的に困っているようであれば、手助けを申し出る」などの考え方を明記している。これにより、高齢者が若者に介護を強いることを防ぎ、一方で若者に「できるだけ在宅すること」「簡単な手助けをすること」等の意識を高める。また、利用者がこの憲章を理解した証としてサインしてもらうことで、憲

表 3 各団体の利用者数

団体名	期間	利用者数
Nante's Renoue	2005 年創立～2012 年末日	高齢者 140 名 若 者 269 名
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 40 名 若 者 44 名
LIEN	2007 年創立～2012 年末日	高齢者 108 名 若 者 133 名
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 17 名 若 者 20 名
At Home Crochus	2009 年創立～2012 年末日	高齢者 15 名 若 者 12 名
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 5 名 若 者 4 名
Le Parisolidaire Lyon	2005 年創立～2012 年末日	高齢者 190 名 若 者 190 名
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 50 名 若 者 50 名
PACT	2010 年創立～2012 年末日	高齢者 26 名 若 者 26 名
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 10 名 若 者 10 名
Le Pari Solidaire	2003 年創立～2012 年末日	約 2,000 組
	2013 年 4 月 1 日時点	高齢者 120 名 若 者 170 名

表 4 各書類の役割

登録用紙	利用者全員がはじめに作成する書類。主に個人情報と、異世代ホームシェアに対する要望等を記載する。運営者が高齢者と若者の組み合わせを考える際にも用いるため、利用者は生活スタイルや趣味等について細かく答える項目がある。
COSI ネットワーク共通の憲章	異世代ホームシェアの基本的な理念やルール、共同生活の心得等を記載しており、利用者は内容を理解した上で署名する必要がある。COSI ネットワーク内のどの団体も同じものを用いている。
団体独自の憲章	団体ごとに定めている憲章。団体の運営方針によって異なったものとなっている。利用者はこちらの憲章にも署名する必要がある。
ルールのチェックリスト	マッチングが成立してから行う。それぞれの異世代ホームシェアのペアに合わせたルールを作成するための指標である。共同生活における詳しいルールを制定する。

章に反する行為が認められた場合には団体側が利用者に対して注意ならびに契約の解除ができるようになっている。

4-2 運用手順

異世代ホームシェアは、①広報、②登録、③マッチング、④ミーティングの 4 段階を経て開始することができ、実施中に行う⑤アフターケアを含めた 5 つの段階に分けることができる。①、②の段階は、どの団体も手順としては共通していた（図 2）。しかし、③～⑤の段階では、それぞれの団体で運用手順の違いがみられた^{注 20)}。その模式図を図 3 に示す。また、それぞれの段階の一般的な役割について表 5 に示す。

これらの団体による違いは主に 4 つの項目にまとめることができる（表 6）。また、その 4 項目の特徴について以下に記す。

- (1) スタッフのマッチングへの付き添いの有無…マッチングを 2

者（高齢者・若者）だけで行う団体（2 団体/6 団体）と、3 者（高齢者・若者・団体スタッフ）で行う団体（4 団体/6 団体）がある。前者は、「2 人だけの方が相手を良く知ることが出来る」、後者は「スタッフを交えた方がマッチングをスムーズに進めることができる」との方針で行っている。

(2) マッチングから契約（憲章にサインする）までの期間…マッチングから契約までの期間にも違いがみられた。マッチングの場で行う（Le Parisolidaire Lyon）団体もあれば、「最低 1 日は空ける」（Nante's Renoue）、「2、3 日後に確認を行う」（PACT）と、あえて日数を置く団体や、ケースによって変えている団体もあり、様々であった。あえて日数を置く団体は「その場の印象や勢いで決めてしまわずに、冷静に考える時間を置く必要がある」との方針で行っている。

(3) ミーティングのタイミング・手法…ミーティングのタイミング・手法は、各団体で大きく異なる。マッチング以降は、スタッフを含めた 3 者で集まることのない団体（2 団体/6 団体）、マッチングとは別の日に、スタッフを含めた 3 者でミーティングを行う団体（2 団体/6 団体）、ケースによって異なる団体（2 団体/6 団体）がある。

表 5 運用手順の一般的な役割

①広報	パンフレットやインターネット、新聞への掲載等 ^{注 21)}
②登録	高齢者：登録要請を受け次第、スタッフが高齢者宅を伺い、要望や必要事項のヒアリング・住宅のチェックを行う。 若者：登録用紙を記入・提出し、スタッフとの面接を行う。
③マッチング	高齢者宅で、顔合わせ、若者による住宅のチェックを行う。
④ミーティング	憲章への署名、ルール決め等の契約を行う。
⑤アフターケア	実施中にトラブルがないか等の確認を行う。

図 2 共通の運用手順

図 3 各団体の運用手順

表 6 団体間に見られる 4 つの相違点

団体名	団体スタッフのマッチングへの付き添いの有無	マッチングから契約までの期間	ミーティングのタイミング・手法	アフターケアの手段
Nante's Renoue	有り	最低 1 日空ける。	ルール決めはマッチングの日と一緒に。その後一旦考える期間を設けた上で、双方へペア決定の確認を行う。正式に決定された場合、憲章等の書類を郵送で送り、サインして返信してもらう。	高齢者へは電話での確認（最初の 2 ヶ月間、週に 1 回）を行う。若者へは、集会（月に 1 回）に来てもらい、他の利用者と交流しながらの確認を行う。
LIEN	有り	ケースによって異なる。マッチングの場で決めることも可能。	基本的には、マッチング後にミーティングだけの別の日を設けるが、マッチングの日に全て契約まで終わらせることも可能である。また、別の日を設ける場合でも、マッチングの際に基本的なルールは決めてしまうことが多い。	電話確認（1 ヶ月半に 1 回）又は、訪問しての確認（1 年に 1 回）を行う。
At Home Crochus	無し	1 日は空くようになっている。	ペア決定後、ミーティングだけの別の日を設けている。（ミーティングはスタッフが立ち会う。）	電話にて予定を決めた後に、高齢者宅に 30 分程度訪問して確認を行う。
Le Parisol-Idaire Lyon	有り	マッチングの場で行う。	マッチングの場で契約まで全て終わらせている。	最初の 1 年のみ電話確認又は、訪問しての確認を行う。最初は毎月行い、慣れてきたら 2 ヶ月に 1 回の頻度とする。
PACT	有り	2、3 日は空けるようにしている。	ペア決定後、ミーティングだけの別の日を設けている。	電話にて予定を決めた後に、高齢者宅に訪問して確認を行う。
Le Pari Solidaire	無し	ケースによって異なる。	入居前までのどこかのタイミングで行う。	高齢者への確認は、状態に合わせて行ったり行わなかったりする。若者には毎月 1 回の報告の義務を設けている。

(4) アフターケアの手段…アフターケアの手段は、電話確認・訪問を行う団体（4 団体/6 団体）のほか、高齢者には電話確認、若者には参加者向けの集会に来てもらい他の利用者と交流しながら確認する（Nante's Renoue）、高齢者への確認は状態に合わせて行ったり行わなかったりするが若者には毎月 1 回暮らしぶりについて報告の義務がある（Le Pari Solidaire）等の違いが見られる。特に、Nante's Renoue の若者利用者を集めた集会は「若者利用者同士で相談し合うことによって、悩みがあっても解決できている」と、効果的である様子がうかがえた。また、At Home Crochus では、契約の際、緊急時に備えて、若者に対して同居する高齢者の主治医の連絡先を伝えることを確認している^{注 22)}。

4-3 関係主体とのつながり

COSI ネットワーク 6 団体の関係主体とのつながりを分析した結果、①利用者、②ボランティア、③教育機関、④援助団体、⑤行政、⑥COSI ネットワークの 6 つの主体との連携があった。その一般的な関係主体とのつながりの模式図を図 4 に示す。また、各団体でスタッフのバックグラウンドや運営方針、団体が所在する地域の特性等が異なり、関係主体とのつながりも大きく異なる。各団体の関係主体とのつながりに関する模式図を図 5 に示す。

図に示すように、Nante's Renoue は教育機関とのつながりが無い。その理由は、若者に対しては主にインターネットを通じての広報のみであるが、若者の登録者数は高齢者の登録者数の約 10 倍あり、教育機関とのつながりの必要性を感じていないからである。

4-4 財源

各団体の収入の割合について表 7 に示す。6 団体中 PACT 以外の 5 団体が年会費・登録費の収入だけでは人件費まで賄えず、人件費を捻出するためには援助団体からの補助金が必要であると考えている。（人件費を賄えるだけの年会費・登録費を設定してしまうと、利

図 4 一般的な関係主体とのつながり

表 7 収入の割合

団体名	年会費・登録費	補助金	計
Nante's Renoue	52%	48%	100%
LIEN	75%	25%	100%
At Home Crochus	100%	0	100%
Le Parisolidaire Lyon	50%	50%	100%
PACT	0	100%	100%
Le Pari Solidaire	50%	50%	100%

用者の負担が大きくなり過ぎる。）しかし At Home Crochus は援助団体とのつながりがなく、補助金を受ける体制を築けていない。よってこの団体のみ全てのスタッフが無給である。At Home Crochus は、「自分たちの団体はまだ新しく、あまり知られていないので援助団体とのつながりが作れていない。無給でも活動を続けていれば、きっと賛同して支援してくれる団体が現れる。」という考えである。また、LIEN は「同じ額でも、一つの団体から多額の補助金をもらうのではなく、複数の団体から少額ずつ集めるようにしなければ、補助金を打ち切られた時に活動を続けられない」との考えで、補助金の申請に多大な労力を注ぎ、積極的に申請を行っている。一方 PACT は、強力なバックアップ体制を築けているため^{注 23)}、利用者から年会費・登録費を集めずに運営することができている。

このように、援助団体とのつながりによって、各団体の財源に大きな違いがみられた^{注24)}。

年会費・登録費の設定も各団体によって異なっている(表8^{注25)})。また、多くの団体が家賃にあわせて異なる額の年会費と登録費を設定している(例えば、家賃無料の若者は家賃有料の若者よりも年会費が高い等)。家賃については、無料と有料の2パターンを設けている団体(5団体/6団体)と、有料のみの団体(PACT)がある。PACTにも、無料で良いという高齢者はいるが、「有料で契約を結んでほしい」という考えのもと、必ず家賃を発生させている。

そして、PACT以外の団体は、家賃のパターンによって若者の在宅時間に条件を設けている。基本的にはどの団体も家賃が無料のパターンのほうが在宅の条件が厳しく(基本的に夜間は必ず在宅する等)、有料のほうが緩い(平日の夜間のみ在宅する等)か、もしくは制約がない。ただしPACTは「決まりごとを作ってしまうとそれ以外のことをしなくなってしまう」との考えで、交流や手伝いに関する条件は決めないようにしている。その分、マッチングの際に時間をかけて双方と話し合い、異世代ホームシェアの目的や考えを理解してもらうようにしている。

図5 関係主体とのつながり

表 8 家賃のタイプと在宅条件・年会費・登録費

団体名	家賃のタイプ	若者に課せられる在宅の条件*	年会費	登録費
Nante's Renoue	無料	・基本的には毎晩在宅する ・1ヶ月に2回の週末は在宅しなくてもかまわない	高齢者：€200 若 者：€250	高齢者：€30 若 者：€20
	有料（€150まで）	・平日は基本的に毎晩在宅する	高齢者：€200 若 者：€200	
LIEN	€0~€55	・基本的には毎晩在宅する ・1ヶ月に1回の週末は在宅しなくてもかまわない	高齢者：€150 若 者：€250	高齢者：€30 若 者：€15
	€55~€160	・平日は基本的に毎晩在宅する	高齢者：€150 若 者：€200	
At Home Crochus	無料	・基本的には毎晩在宅する ・1ヶ月に2回の週末は在宅しなくてもかまわない	高齢者：€120 若 者：€210	高齢者：€30 若 者：€10
	有料	・在宅の条件はない	高齢者：€160 若 者：€150	
Le Parisolidaire Lyon	無料	・夜間在宅すること、朝いること等の条件がある	€30	€20
	有料（€300まで）	・在宅の条件はない	€30	
PACT	€30~€150	・決めないし、明記しないが手伝いはするという立場で考えている ・そのため一つ一つのマッチングを決めるために良く話し合うことを重視している	なし	なし
Le Pari Solidaire	無料	・基本的には毎晩在宅する ・1ヶ月に2回の週末は在宅しなくてもかまわない	高齢者：€210 若 者：€350	高齢者：€30 若 者：€10
	有料（€500まで）	・在宅の条件はない	高齢者：€150 若 者：€200	

*ただし長期休暇の期間はこの限りではない

5. おわりに

本稿では COSI ネットワーク加盟団体による異世代ホームシェアの運営システムを明らかにした。①書類、②運営手順、③関係主体とのつながり、④財源のそれぞれに共通点と相違点がある。主な共通点は、憲章の遵守、アフターケアの実施、家賃の段階的設定など、単なる経済的効果のみではなく高齢者と若者の精神的な支え合いを促進するための仕組みとなっている点である。一方の相違点は、団体が所在する都市の背景（家賃が高い地域、アルテルナンス利用者が多い地域等）に起因するものと考えられる。特に都市規模により家賃の水準や利用者数も大きく異なっており、やはり人口や大学が多い大都市^{注26)}では、利用者数も比例して多くなっている。しかし、マッチングなどの主要な業務を担当するスタッフ数はどの団体もほとんど差がなく、それゆえに、大都市の異世代ホームシェアの運営システムは、中小都市に比べて手順がやや簡略化されている（スタッフが利用者と会う回数が少ない、アフターケアにおける若者の方からの報告を求める等）。

次に、フランスにおける異世代ホームシェアの普及要因について考えてみると、①社会的背景による後押しと、②団体同士のネットワークの2つが挙げられる。①については、住宅困窮者支援事業を実施するアソシエーションが多く、社会的に認知されており制度的にも整っているため、補助金を得られる機会が多く、関係主体とのつながりが構築しやすい実情がある。また2003年のパリの猛暑が人々の意識の変革に大きな影響を与えた点も普及要因としては大きい。また、②については、ネットワーク内での運営システムの伝授による団体の立ち上げ易さ、広報活動の援助による資金面・認知度双方へのサポート、活動報告会での知識の補完等、その影響力は大きい。

ひるがえって現在のわが国では、異世代ホームシェアは黎明期にあり、地域の事情に応じた仕組みを模索している段階であると言え

よう。本稿にて示したフランスの運営システムは、その基本になりうるものとして参考になる点が多い。フランスにおける取り組み同様、各地域の事情に合わせ応用していくことで、わが国の状況に応じたより良い運営システムが確立できることを期待したい。

本研究は平成24年度国土交通省国土政策関係研究支援事業の支援を受けた。記して謝意を表す。

参考文献

- 1) 檜谷美恵子：フランスの社会住宅政策—ベッソン法の制定とその後の動向—，都市住宅学11号，1995
- 2) 檜谷美恵子：民間非営利組織アソシエーションの制度的位置づけとその活動実態—フランスにおける住宅困窮問題への政策対応に関する研究—，都市住宅学35号，2001
- 3) MARIANO SÁNCHEZ, JOSÉ M. GARCÍA, and PILAR DÍAZ：Much More Than Accommodation in Exchange for company—Dimensions of Solidarity in an Intergenerational Homeshare Program in Spain—，Journal of Intergenerational Relationships，2011
- 4) NPO ハートウォーミングハウス：高齢世帯所有の部屋ストック有効活用の可能性—ホームシェアプログラムによる活用提案—，平成21年度長期優良住宅先導的モデル事業報告書
- 5) 兼平雅俊・杉田良太・新井信幸：戸建て住宅の空き家活用方策としてのホームシェアの可能性—大学周辺住宅地を対象とした高齢世帯と大学生のマッチング要件の考察—，日本建築学会大会学術講演梗概集，E-1 分冊，pp1285-1286，2012
- 6) 宮原真美子・西出和彦：異世代シェア居住の可能性—USAにおける高齢者—若者シェアの事例を通して（1）—，日本建築学会計画系論文集，第76巻，第661号，pp513-520，2011.3
- 7) 宮原真美子：アメリカにおける非血縁・異世代間シェア居住，住宅，pp14-21，2010
- 8) 園原一代・木村直紀・奈良明彦：ホームシェアプログラムによる高齢者世帯の部屋ストックの活用について—ホームシェア居住実験を通して—，住宅，pp22-28，2010

9) 木村直紀：ホームシェアプロジェクトによる高齢者世帯の住宅ストック活用，建築とまちづくり No.414, pp16-20, 2012

注

注 1) ホームシェア・インターナショナル (Homeshare International) はホームシェアの推進を目的として 1999 年に創立された。イギリスのチャリティ団体として登録されている (登録番号 1081517)。同団体によれば、現在、世界でホームシェアが行われている国は、オーストラリア・ニュージーランド・ベルギー・カナダ・フランス・ドイツ・オーストリア・アイルランド・イタリア・スペイン・イギリス・アメリカの 12 ヶ国がある。ホームシェア・インターナショナルのホームページ (<http://homeshare.org/>) 参照。

注 2) ホームシェア・インターナショナルのホームページ (上掲) より (2013 年 4 月時点)。

注 3) 約 3,500 組のマッチング数の内訳は、今回現地で行ったヒアリングによれば、Le Pari Solidaire : 約 2,000 組、ensemble2generations : 約 1,000 組とパリで活動している団体で約 3,000 組あり、その他の団体で約 500 組である。異世代ホームシェアは若者 (学生) の住宅確保および住宅費負担軽減という目的も含んではいるが、今回のヒアリングによれば主眼が置かれているのは高齢者の孤立解消である。本研究では、共同生活を通じた異世代間の交流や支え合いを実現する住まい方の一つとして異世代ホームシェアに着目している。

注 4) 財団法人自治体国際化協会パリ事務所：『フランスにおける地域振興とアソシアシオン』、Clair Report No.344, 2010.1 によれば、アソシアシオンとは日本で言う社団法人ないし NPO 法人に近い非営利団体である。

注 5) NPO 法人ハートウォーミングハウスや、株式会社ナウい、NPO 法人リブ&リブ、東北工業大学新井研究室等が挙げられる。その他にも大阪や愛知でも異世代ホームシェアを始めようとしている団体を確認している。

注 6) ensemble2generations は代表の Typhaine de PENFFNTENYO 氏によって 2005 年に創立された。今回の調査では同氏へのヒアリングも行った。同氏によれば、創立のきっかけは、2003 年のパリの猛暑を経験し、高齢者の意識を変えなければと感じたことと、アベ・ピエールの教えに共感したことである。COSI ネットワーク同様、フランス全土に活動を展開している。フランチャイズ方式で展開しており、同氏が確立したノウハウを各地域で活動したい人物に伝授していつている。そして、ensemble2generations という名前も統一して用いており、この名前のブランド化を目指している。

注 7) ただし Résau L.I.S.は団体のホームページがなく、ホームシェア・インターナショナルにも情報がないため、現在の活動実績が確認できない。そのため、本論文の記述は 2 つのネットワークに限っている。

注 8) PACT は、住宅・都市開発事業のブランニング、コンサルティング、不動産管理などを行う民間の会社組織である。その組織の一部門に異世代ホ

ームシェアを実施する部門を設けている。ただし異世代ホームシェア事業については非営利で行っている。

注 9) ここでいう改修費は、「ホームシェアのために費用をかけて高齢者宅を改修したか」である。ヒアリングの結果、ほとんどのケースで改修を行っておらず、団体側も改修について重要視していないようであった。しかし、インターネット設備を自己負担するケースはあるとのことであった。

注 10) その他では、高齢者の住宅の条件や、活動を通して感じること、団体の他の活動などについて質問した。

注 11) 都市規模の違いを示すために人口 (INSEE : フランス国立統計経済研究所 2010 年のデータ) を記載している。また、各団体の活動対象地域とその人口、対象年齢、さらに参考のため、その地域の 15～29 歳と 65 歳以上の人口について付表 1 に示す。

注 12) 各団体の創立のきっかけは以下の通りである。

・Nante's Renoue : 2005年に代表のErwan Quenere氏が創立した。Le Pari Solidaireの活動に共感し、銀行員を辞め、勉強を始め、団体を起こした。

「高齢者には自分の家で出来るだけ長く元気に暮らしてもらいたい」「高齢者と若者双方の孤立を防ぎ、安心感を与え、他者との関係づくりの力を伸ばしてもらいたい」という考えがきっかけで活動を始めた。

・LIEN : 2007年創立。創立者は研修センターの関係者で、アルテルナンス¹⁴⁾ 利用者のためにもパリで始まっていたこの事業が特に必要だと考えたことがきっかけである。アルテルナンス利用者は会社周辺と学校周辺で部屋を借りるため二重の家賃がかかってしまっていた。LIENの所在地のカルヴァドス県カン市はアルテルナンス利用者が特に多い地区であった。

・At Home Crochus : 2009年に代表のStéphanie Lumbreras氏が創立した。きっかけは、①経済危機による家賃の値上がりが高齢化・孤立、離婚等の社会問題を深刻化させるため、②At Home Crochusのあるオルレアン地域は広い家が多く、若者が住めるところが少ないため、③アルテルナンスを利用している学生のため、④Stéphanie Lumbreras氏は若者の生活援助関係の仕事に携わっており、「若者が事業に携わることで人間的に成長してもらいたい」という思いがあったための4点である。

・Le Parisolidaire Lyon : 2005年にCorinne BELOT氏が創立した。パリでの活動を知った際に、自分の住んでいる地域 (リヨン) も大学町だが家賃が高くドミトリーが少ないため、若者が住むところを探すのが難しいという現状と、高齢者は家にいる時間が長く引きこもりがちとなってしまっているという現状を解決できる良い事業だと思ったことがきっかけである。

・PACT : PACTの礎は、戦後間もなく始まった住宅対策である。1970年にヴァール県を対象とした会社を確立した。そして、2010年の終わり高齢者と若者の異世代居住についての事業を始めた。Alain FARACHE氏は、元々高齢者の住宅改善についての仕事をしていた。初めは界限に住宅を建てる研究から始まったが、県と協力しながら個人向けの対策を考えるようになった。Alain FARACHE氏の一番の目的は高齢者を孤独から守ることである。アベ・ピエール神父の影響も強く受けている。

付表1 各団体の活動対象地域および対象年齢

団体名	活動対象地域 (人口)	対象年齢	(参考) 事務所所在地 の各人口	(参考) 活動対象地域 の各人口
Nante's Renoue	Nantesとその最寄りの地域 (周辺20km未満) (不詳、Nantesのみで28万5千人)	高齢者: 50歳以上*1 若 者: 18~40歳	65歳以上: 3万9千人 15~29歳: 8万3千人	65歳以上: 不詳 15~29歳: 不詳
LIEN	Basse-Normandie (バス・ノルマンディー地域圏) (147万3千人)	高齢者: 55歳以上 若 者: 16~25歳	65歳以上: 1万8千人 15~29歳: 3万5千人	65歳以上: 28万1千人 15~29歳: 25万5千人
At Home Crochus	Communauté d'agglomération Orléans Val de Loire (オルレアン・ヴァル・ド・ロワール都市圏共同体) (27万3千人)	高齢者: 40歳以上 若 者: 18~30歳	65歳以上: 1万5千人 15~29歳: 3万1千人	65歳以上: 4万人 15~29歳: 6万人
Le Parisoli- daire Lyon	Le Grand Lyon (リヨン都市共同体) (129 万 3 千人) このエリア外でも要求があれば制限しない	高齢者: 60~100歳 若 者: 17~45 歳	65歳以上: 6万9千人 15~29 歳: 14 万人	65歳以上: 19万5千人 15~29 歳: 30 万 9 千人
PACT	Toulon Provence Méditerranée ¹⁵⁾ (42万3千人)	高齢者: 60歳以上 若 者: 学生に限る	65歳以上: 3万5千人 15~29歳: 3万人	65歳以上: 9万4千人 15~29歳: 7万4千人
Le Pari Solidaire	Île-de-France (イル・ド・フランス地域圏) (1178万6千人) このエリア外でも交通等が整っている場合は制限しない	高齢者: 50歳以上 若 者: 18~30歳	65歳以上: 32万2千人 15~29歳: 53万2千人	65歳以上: 150万6千人 15~29歳: 245万1千人

*1: 障がい者も含まれる

・Le Pari Solidaire：2003年に代表のAude Messean氏が知人と2人で創立した。創立のきっかけは2003年のパリの猛暑で、一人暮らしの高齢者が大勢亡くなった際に、高齢者をもっと尊敬し、大切にしなければならないと考えたからである。その他にも「高齢者をもっと敬わなければならない」という宗教的考えもあった。

注13) アベ・ピエール、田中千春（訳）：『遺言…苦しむ人とともに』、人文書院、1995.4によれば、アベ・ピエール(Abbé Pierre)は聖職者であり、元フランス国民議会議員でもある。ホームレス等の救済活動に一生を費やした。エマユス共同体という、共同生活をしながらリサイクル活動による自活の実現を目指す活動を行う共同体の創設者でもある。

注14) アルテルナンス(alternance)は学生向けの就労体験の制度である。フランスでも若者の就職難が深刻化している中で、卒業時に実地経験があり、即戦力となる学生を創り出そうという目的から国によって設置された。様々な形態があり、たとえば3週間通学して次の2週間は通勤するというような形で通勤と通学を両立させる。相手先企業は受け入れてくれるところならどこでもよく、学生は自分が行きたい企業があれば自ら依頼し、許可が出れば利用することができる。コクボコミュニケーションのホームページ(<http://www.kokuboco.net/Pages/universityandgrandecole.aspx>)参照。

注15) 登録は16団体(2012年9月時点)だが、現地でヒアリングしたところ実際には活動停止中の団体も含まれている。COSI ネットワークのホームページ(<http://www.reseau-cosi.com/>)参照。

注16) 16団体のうち、遠隔地ゆえに現地訪問が困難と判断した2団体を除く14団体に連絡をとった。そして14団体中、今回調査した6団体以外は返事がなく、具体的な活動を確認できなかった。

注17) 課題と問題点について

- ・財源の不安定さ：補助金を得て有給スタッフを雇えるようになりたい。(At Home Crochus)／資金集めが一番大変で時間がかかっている。(LIEN)／補助金を増やし、他の有給スタッフを雇い、事業の拡大をしたい。(Le Parisolidaire Lyon)／補助金を打ち切られたら活動できなくなってしまう。(Le Pari Solidaire)
- ・高齢者の健康状態の見極め：世話をしてもらうという考えは絶対にあってはいけないので特に気をつけている。(Nante's Renoue)／高齢者の認知症や死亡の問題を抱えている。(Le Pari Solidaire)／鬱傾向が強い高齢者に苦勞をしている。(ensemble2generations)
- ・スタッフの能力：福祉関係の知識に苦勞している。(PACT)

注18) 財団法人自治体国際化協会パリ事務所：『フランスにおける地域振興とアソシエーション』、Clair Report No.344, 2010.1によれば、この問題はCOSI ネットワークの団体だけでなく、フランスのアソシエーションに共通して言える問題である。

注19) 各団体のスタッフ数と業務の実情について以下の表に示す。

団体名	スタッフ数	業務の実情
Nante's Renoue	有給スタッフ：1名 無給スタッフ：2名	実質的に全ての業務を有給スタッフ1人でこなしている。
LIEN	有給スタッフ：1名 アルテルナンス利用の学生：3名	学生に事務作業を補助してもらってはいるが、ほとんどの業務を有給スタッフ1人で行っている。
At Home Crochus	無給スタッフ：10名	2名のスタッフが中心となり、ほとんどの方が現役で他の仕事に勤めながら活動に携わっている。
Le Parisolidaire Lyon	有給スタッフ：1名 無給スタッフ：1名	実質的に全ての業務を有給スタッフ1人でこなしている。
PACT	この事業の担当者：1名	実質的に全ての業務を担当の方のみでこなしている。
Le Pari Solidaire	有給スタッフ：5名 (内、他のプロジェクト担当2名、会計1名)	異世代ホームシェア事業の運用は担当の方1人で行っている。しかし会計や広報活動等は他のスタッフと分担している。

注20) 各団体の運用手順における手間の合理化については以下の通りである。

- ・Nante's Renoue：マッチングとミーティングを同じ日に行うことで手順を簡略化しつつも、その場で契約までを終わらすことを避けるため、契約

は1日以上冷静に考える時間を経た後、郵便で行っている。また、アフターケアに力を入れており、月に1回、若者の利用者のための集会を開催している。

- ・LIEN：ミーティングのタイミングや回数は参加者の状態に合わせて臨機応変に設定している。

- ・At Home Crochus：マッチングは、「2人だけで話し合ったほうがお互いをよく知ることができる」との考えの元、あえてスタッフの付き添い無しで行っている。その後、別の日に高齢者と若者とスタッフ(必ず2名で参加するようにしている)でミーティングを行うという手順を採っている。

- ・Le Parisolidaire Lyon：マッチングの日に全て終わらせることで手間が最小限となっている。マッチングの是非について考える時間は有していない。

- ・PACT：マッチングを3者で行った後に、別の日に3者で再び集まりミーティングを行っている。若者に在宅の条件を課さないためにも、手間暇かけてしっかり話し合うようにしている。

- ・Le Pari Solidaire：ミーティングのタイミングはケースに合わせて臨機応変に対応している。アフターケアの手間を最小限に抑えるため、若者からの報告を義務付けている。

注21) 有効な広報手段について、若者はインターネット、高齢者は新聞や口コミ、各種広報誌への掲載との意見が多かった。また、イベントで活動の周知を行っている団体(Nante's Renoue, At Home Crochus)や、福祉関係のアソシエーションの会合に参加し広報させてもらっている団体(At Home Crochus)もある。その他にもCOSIネットワークによる広報活動の援助(3-2節参照)や行政や教育機関への広報依頼(4-3節参照)等がみられる。

注22) ensemble2generationsでは原則としてアフターケアを行っておらず、マッチングが成立した時点で活動が終了する。アフターケアを行っている点は、COSIネットワークによる異世代ホームシェアがより社会福祉的な目的によるものであることを示す一端である。

注23) PACTは、TPM によって強力なバックアップを受けている。TPMとは「Toulon Provence Méditerranée＝トゥーロン ブロヴァンス 地中海」の頭文字から名付けられた12の共同体の管轄区で活動する都市機構である。都市やコミュニティの問題を中心に様々な活動をしている。TPMのホームページ(<http://www.tpm-agglo.fr/>)参照。

注24) 各団体が補助金の援助を受けている機関は以下の通りである。

- ・Nante's Renoue：Fonds social européen(欧州社会基金)：職業訓練や雇用創出施策のための資金を提供している／PAYS DE LA LOIRE(ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏)：行政／LOIRE ATLANTIQUE(ロワール・アトランティック県)：行政／FONDATION SNCF(SNCF財団)：若者を支援する団体／Nantes(ナント市)：行政／Crédit Mutuel(フランス相互信用連合銀行)／cress：社会連帯経済の地域組合／malakoff mederic：社会福祉団体

- ・LIEN：Ministère de l'Éducation nationale(国民教育省)：フランスの省の一つで教育行政を担当している／Basse-Normandie(バス・ノルマンディー地域圏)：行政／LA MANCHE conseil général：マンシュ県の県議会／L'ORNE conseil général：オルヌ県の県議会／Calvados conseil général：カルヴァドス県の県議会／CAEN(カン市)：行政／Carsat：社会保障の公共サービスを行う民間団体／MSA(農業社会共済)：農業の社会サービス組織／Vauban Humanis：社会福祉団体

- ・Le Parisolidaire Lyon：Crédit Mutuel(フランス相互信用連合銀行)／CARSAT：社会保障の公共サービスを行う民間団体／Villeurbanne Est Habitat：社会住宅の管理などを行う民間団体／Répam santé：保険会社／AG2R：保険会社／VILLE DE LYON(リヨン市)：行政／FONDATION DE FRANCE(フランス財団)：日本における共同募金に近い団体

- ・PACT：TPM^[注23)]

- ・Le Pari Solidaire：MAIREI DE PARIS(パリ市)：行政／Île-de-France(イル・ド・フランス地域圏)：行政／L'Assurance retraite Île-de-France：社会保障の公共サービスを行う民間団体／SGIM：社会住宅の管理などを行う民間団体／Paris Habitat：社会住宅の管理などを行う公共機関／FONDATION SNCF(SNCF財団)：若者を支援する団体／FONDATION DE FRANCE(フランス財団)／Fonds social européen(欧州社会基金)／France Bénévolat：フランスのボランティア団体／Université Pierre-et-Marie-Curie：ピエール・マリー・キュリー大学／Val-de-Marne conseil

général : ヴァル・ド・マルヌ県の県議会／Ministère de l'Éducation nationale (国民教育省) : フランスの省の一つで教育行政を担当している／Essonne conseil général : エソンヌ県の県議会／Vélizy-Villacoublay (ヴェリジーヴィラクブレー市) : 行政／Yvelines conseil général : イヴリーヌ県の県議会／droit de cité habitat action logement : 社会住宅の管理などを行う民間団体／TOIT ET JOIE : 社会住宅の管理などを行う民間団体

注25) 訪問時 (2012年10月) のユーロの相場は1ユーロ=102.5円である。

注26) 参考までに事務所所在地の大学数と利用者数を右表に示す。この大学数は、公立と私立の双方を含む一般的な大学のみの数である。国民教育省のホームページ (<http://www.education.gouv.fr/>) 参照。

団体名	事務所所在地の大学数	2013年4月1日時点の利用者数
Nante's Renoue	31	高齢者40名, 若者44名
LIEN	16	高齢者17名, 若者20名
At Home Crochus	12	高齢者5名, 若者4名
Le Parisolidaire Lyon	48	高齢者50名, 若者50名
PACT	14	高齢者10名, 若者10名
Le Pari Solidaire	177	高齢者120名, 若者170名

(2013年6月10日原稿受理, 2014年5月23日採用決定)